

全日本民医連からの支援者数2,443人に

全国から宮城へ

たくさんのご支援ありがとうございました



宮城民医連支援最後のチーム (坂総合病院・5月31日)

5月31日をもって、全日本民医連からの支援は、心のケアチームを除いて、終了いたしました。長い間、全国からのたくさんのご支援有難うございました。

坂総合病院で、支援者の受付をしていた高橋敦子さん(宮城)は、「全国から本当に多くの方が支援に入ってきて、あらためて民医連の力を確信いたしました。本日お帰りになった千葉民医連の小林先生は、3月11日の地震の直後に支援に行けと言われると確信(?)し、これまで背負ったこともないリュックを買って声がかかるのを待っていたようでとても熱いハートを持っている先生でした。」と話してくれました。



5月31日までの支援者数は、医師383人、看護師679人、技術部門674人、事務・



その他専門職707人の合計2,443人でした。

全日本民医連経由での支援は終了しますが、宮城県では多賀城市や石巻市、岩手県などでも、家から泥をかき出す作業など多くのボランティアを必要としている市町村もありますので、通常のボランティアを希望される方は、各市町村の災害ボランティアセンターに問い合わせしてみたいかがでしょうか。宮城民医連の泉病院では、若い職員と友の会会員さんが「日中、自宅の作業で避難所にいないことが多いから、朝食の炊き出しを気仙沼で行うために、朝の(真夜中)2時に出発する」というチームもあります。これからも“被災地の人に心を寄せる”事が大事になると思います。

スイスからの義捐金で保育所にジャングルジムを



古いジャングルジムで後藤所長、玉橋先生、渋谷所長(左から)



園児の制服を見つけ持ち帰ることに

本ニュース31号(4月14日付)で、紹介しましたが、玉橋征子医師のスイスの友人がバザーなどで集めてくれた1万4千€(ユーロ)で保育所のジャングルジムを購入することになりました。

6月9日、東松島市の被災した保育所を野蒜保育所の後藤誓子所長、小野保育所の渋谷恵美所長が案内してくれました。野蒜保育所は床暖房の立派な

建物でしたが海岸のすぐ近くのため全壊でした。同じ場所には建てることができず、また、園児数も減少することから3ヶ所あった保育所が1ヶ所に統合されるということです。後藤所長は「大変ありがたい申し出で子どもたちも喜ぶと思います。」と話していました。設置場所は古くなった小野保育所に仮設の保育所を建て、その敷地に新しいジャングルジムを作ることになります。



津波で壊れた野蒜保育所



仙台駅「はやぶさ」の車両に、がんばろう日本! がんばろう東北! の文字が